

政策番号	14	政策分野	障害者福祉
------	----	------	-------

基本方針	障害のあるひとが、自立した生活を営み、また社会のさまざまな分野の活動に参加できるよう、施策の着実な展開を図る。これらの取組を通じて、障害のあるひともないひとも、すべての市民が個人として厚く尊重され、地域社会のなかで、いきいきと活動しながら、相互に認め合い、支え合い、安心してくらするまちづくりを推進していく。
------	--

担当局	保健福祉局	共管局	教育委員会
-----	-------	-----	-------

政策に関係する 主な分野別計画等	支えあうまち・京都ほほえみプラン 京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針
---------------------	--

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	25 年度	26 年度	27年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	障害者福祉施設からの地域生活移行人数(人)	11	20	-	-	8	5	20	25.0%	d
2	精神科病院から地域生活に移行する者の割合(%)	74.8	71	-	-	72.8	74.8	71	105.4%	a
3	福祉施設からの一般就労移行人数(人)	68	163	a	a	121	110	50	220.0%	a
4	総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数(人)	45	600	a	a	69	64	60	106.7%	a
				a	b					a

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	25年度	26年度	27年度
1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり(3指標)	a	a	b
1402	自立した地域生活への移行促進(3指標)	a	a	a
1403	生きがいをもって働くことができる社会づくり(3指標)	b	c	a
1404	生活しやすい社会環境の整備(2指標)	b	a	b
(4施策平均)		a	a	a

政策の客観指標総合評価	25年度	26年度	27年度
(政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	—	a	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		25年度	26年度	27年度
1	障害への理解が進み、障害のあるひともないひとも、認め合い、支え合ってくらするまちになっている。	c	c	c
2	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	c	c	c
3	働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。	c	c	c
4	バリアフリー(高齢者や障害のあるひとが社会生活をしていくうえでの障壁(バリア)を除去し、ハンディキャップなく生活できるようにすること)などの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。	c	c	c
市民生活実感調査総合評価		c	c	c

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

25年度		26年度		27年度	
順位	%	順位	%	順位	%
9	87.4%	7	88.0%	10	84.8%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標】●地域生活移行人数は、前年度よりも3人減でd評価となった。 ●精神科病院から地域生活に移行する者の割合については、目標値を達成し、a評価となった。 ●一般就労移行人数は、障害のあるひとの雇用に意欲のある企業への支援や各種行政機関と連携した就労支援を実施した結果、前年度の実績は下回ったものの、目標値を大きく上回ったため、3年連続a評価と高い評価で安定している。 ●総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数については、進路先確保のための関係機関・団体との連携や、一人一人のニーズに応じた進路先の確保の取組を進め、高い就職者数を維持したことにより、3年連続a評価と高い評価で安定している。		26年度	B
【市民の実感】●市民生活実感評価は、全体として、昨年度と同様の評価であった。 ●全設問の多数回答が「どちらとも言えない」であり、3年連続c評価が続いている。障害のあるひとへの関心と理解が十分に広がっていないことによると考えられる。 【総括】●市民の実感を広げる必要はあるものの、客観指標を見るとこれまでの取組により一定の効果は出ているものと思われる。 ●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。		25年度	B

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価＋市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		25	26	27
1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり	B	B	B
1402	自立した地域生活への移行促進	B	B	B
1403	生きがいをもって働くことができる社会づくり	B	C	B
1404	生活しやすい社会環境の整備	C	B	C

<今後の方向性>

- お互いに認め合い支え合ってともに地域でくらすまちの実現に向け、平成25年3月に策定した「支えあうまち・京都ほほえみプラン」に基づき、支援体制の構築や障害のあるひとへの関心と理解が広がるよう、市民等への啓発、障害のあるなしに関わらず、積極的に社会参加できる社会環境づくりを推進するとともに、地域における相談支援の強化を行う。
- 障害のあるひとが自立した地域生活を送ることができるよう、安心して地域でくらすための障害福祉サービスの充実や、サービス利用に伴う負担の軽減、在宅生活を支援するサービスの拡充など、自立した地域生活への移行を促進する。
- 働く意欲のある障害のあるひとが生きがいをもって働くことができるよう、企業等への一般就労だけでなく、福祉的就労や在宅就労など、すべての「働き方」を支援するとともに、一人ひとりの「働く力」を向上させるため、それぞれの適性を踏まえた適切な能力開発が可能となる支援環境を整える。
- 総合支援学校において、国や京都府、経済団体等との協働により、企業等での就労から福祉的就労まで切れ目のない支援体制は着実に整備されている状況にあるが、今後も、一人ひとりの市民にも障害のあるひとの就労の広がりが実感されるよう、就労機会の拡大に向けた各種の取組や普及・啓発活動を地道に続けていく。

政策名	14	障害者福祉					
指標名	障害者福祉施設からの地域生活移行人数（人）						
担当部室	障害保健福祉推進室	連絡先	2 2 2 - 4 1 6 1				
1 指標の説明							
障害者福祉施設や精神科病院を退所又は退院し、自立した地域生活に移行した人数							
2 指標の意味		3 算出方法・出典等					
障害がある方の、自立した地域生活への移行状況を示す指標		算出方法：年間の地域生活移行人数合計 出典：事業担当課調べ					
4 数値							
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 11	平成32年度目標値 20	根拠 毎年度継続して達成を目指すべき数値として京都市障害福祉計画に掲げている数値				
	前回数値 25年度	最新数値 26年度	推移	単年度目標値		達成度	
数値	8	5	3人減	数値 20	根拠 京都市障害福祉計画に基づく年間目標値	25.0%	
	全国順位	中長期目標			備考	旧指標（障害者福祉施設・精神科病院からの地域生活移行人数（人））の精神科病院からの地域生活移行人数について、京都府の調査の単位が人数から退院率に変更されたため、指標を変更	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値		80人以上	26年度～29年度	6%			京都市障害福祉計画に基づく年間目標値
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果			
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については本人の障害状況の寄与度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。		25 26 27 - - d			

指標名	精神科病院から地域生活に移行する者の割合（％）						
担当部室	障害保健福祉推進室	連絡先	2 2 2 - 4 1 6 1				
1 指標の説明							
精神科病院に入院している1年未満の者の年間平均退院率							
2 指標の意味		3 算出方法・出典等					
精神科病院に入院している1年未満の者の、地域生活への移行状況を示す指標		算出方法：1年未満入院者の年間平均退院率 出典：京都府事業担当課調べ					
4 数値							
10年後の（平成32年度）目標値	平成27年度評価値 74.8	平成32年度目標値 71	根拠 毎年度継続して達成を目指すべき数値として京都市障害福祉計画に掲げている数値				
	前回数値 24年度	最新数値 25年度	推移	単年度目標値		達成度	
数値	72.8	74.8	2.0%増	数値 71	根拠 京都市障害福祉計画に基づく年間目標値	105.4%	
	全国順位	中長期目標			備考	旧指標（障害者福祉施設・精神科病院からの地域生活移行人数（人））の精神科病院からの地域生活移行人数について、京都府の調査の単位が人数から退院率に変更されたため、指標を変更。京都府が実施する調査結果の公表が12月となったため、平成25年度数値が最新値	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果			
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については患者本人の障害状況や生活能力の寄与度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。		25 26 27 - - a			

政策名	14	障害者福祉	
指標名	福祉施設からの一般就労移行人数（人）		
担当部室	障害保健福祉推進室	連絡先	2 2 2 - 4 1 6 1
1 指標の説明			
就労移行支援施設や就労継続支援施設等の福祉施設を退所し、一般就労に移行した人数			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
働く意欲のある障害のある方が生きがいをもって働ける社会への進捗状況を示す指標		出典：事業担当課調べ	
4 数値			
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 68	平成32年度目標値 163	根拠 毎年度継続して達成を目指すべき数値として京都市障害福祉計画に掲げている数値
	前回数値 25年度 121	最新数値 26年度 110	推移 11人減
			単年度目標値 数値 50
			根拠 京都市障害福祉計画に基づく年間目標値
			達成度 220.0%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次
		達成度	根拠
	数値		
5 評価基準		6 基準説明	
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については各種就労支援事業の総括的な成果指標であることから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。	
		7 評価結果	
		25	26
		a	a

指標名	総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数（人）		
担当部室	指導部	連絡先	3 5 2 - 2 2 8 5
1 指標の説明			
総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
総合支援学校高等部卒業生の自立的な社会参加の達成状況を示す指標		出典：事業担当課調べ	
4 数値			
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 45	平成32年度目標値 600	根拠 今後10年間（23～32年度）の総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数を、過去10年間（13～22年度：365人）の50%増を上回る600人とす
	前回数値 25年度 69	最新数値 26年度 64	推移 5人減
			単年度目標値 数値 60
			根拠 32年度の目標達成のために当年度達成すべき数値
			達成度 106.7%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次
		達成度	根拠
	数値		
5 評価基準		6 基準説明	
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		最終的な目標値の達成を鑑みて、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。	
		7 評価結果	
		25	26
		a	a